

2025年2月15日 南極大学

南極での経験を通して 子どもたちに伝えたいこと

福島町立福島小学校
校長 長浦紀華



本日のプロット

- 1 南極授業を構想するにあたって
- 2 プレ授業の内容
- 3 南極授業の実際
- 4 南極地域観測隊に同行して



1 南極授業を構想するにあたって

- 授業には全校児童が参加したが、内容は第5・6学年を対象にした。
- 南極地域観測隊の活動の内容はもとより、自分の夢を叶え、ミッションを強く意識して業務に当たっている隊員の姿や生き様を伝えることを一番のねらいとした。
- 2回の南極授業がイベントで終わってしまうことのないよう、出発前に時間をかけてプレ授業を行うこととした。

2 プレ授業の内容

2 種類の授業を実施

	対象	時数	主な学習内容	
1	第5・6学年	2h	事前に国立極地研究所から送付していただいた「南極の氷」を使った実験や、昭和基地や南極点の気温のグラフを提示し気候について考えさせたり、南極条約の簡単な内容を知ったりする学習。	
2	第6学年	6h	夢や目標を実現するためには、セルフイメージが大切なことを知り、健全なセルフイメージをもてるよう様々なワークに取り組む学習。また、自分がどうありたいか、何を実現したいかについて内省するとともに、仲間と予祝することで、実現できる自分を明確にイメージする学習。	

3 南極授業の実際

- 事前に児童から集めた「南極の疑問や南極で確認してきてほしいこと」に応える内容を中心に構成。
- 質問やリクエストの大半は、①食事に関すること、②動物（特にペンギン）に関すること、③生活に関することの三つ。

<①食事に関することについて>

夏隊の食事は砕氷船「しらせ」の方が提供してくれることから、「しらせ」の乗員に授業に参加していただきたいと考えた。

食事の内容、配膳の様子を動画にまとめて伝えるとともに、食事の提供に携わる乗員へのインタビューを通し、児童の実感を伴った理解を促すことができた。

また、「南極料理人」と呼ばれる観測隊員は何をしているのかという疑問が生じるため、調理隊員へのインタビューを実施した。



3 南極授業の実際

- 事前に児童から集めた「南極の疑問や南極で確認してきてほしいこと」に応える内容を中心に構成。
- 質問やリクエストの大半は、①食事に関すること、②動物（特にペンギン）に関すること、③生活に関することの三つ。

<②動物に関することについて>

児童にとって南極と言えば「ペンギン」というイメージが強く、本当にいるのか？という質問も多くあったことから、「ペンギンチーム」の取材だけは何としても実現したい旨、事前をお願いしていた。チームのご厚意により、雛の体重測定も経験することができるとともに、ペンギン以外の海鳥の観察もできたことから、南極での調査・研究の内容について動画にまとめ、児童が具体的なイメージによる理解を促すことができた。



3 南極授業の実際

- 事前に児童から集めた「南極の疑問や南極で確認してきてほしいこと」に応える内容を中心に構成。
- 質問やリクエストの大半は、①食事に関すること、②動物（特にペンギン）に関すること、③生活に関することの三つ。

<③生活に関することについて>

「なぜ南極でインターネットができるのか」「電気はどうやって作っているのか」「どんな部屋で寝泊まりしているのか」「室温は何度か」といった児童の疑問に、動画や担当隊員の説明により回答した。

観測隊は研究者だけで構成されているわけではないことや、観測を円滑に行うためには、隊員の生活を支える人々の努力があることを伝えることができた。



4 南極地域観測隊に同行して

福島町立福島小学校 令和6年度 学校通信 第11号 令和7年 1月31日 発行

福小だより

【学校教育目標】
たくましい子
考える子
思いやりのある子
はたらく子

重点教育目標 「認め合い、支え合い、自ら学びを進める子どもの育成」

南極の地から

校長 長 浦 紀 華

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられたことと存じます。昨年は、皆様の温かい御支援と御協力のおかげで、多くの成長と成果を感じられる一年となりました。特に、子どもたち一人一人が学びに対して積極的に取り組み、多くの喜びや成功を経験したことは、学校全体の大きな誇りです。今後も、子どもたちの成長を見守り、学びの場を豊かにしていくために、教職員一同、全力を尽くしてまいります。

さて、私は現在、第66次南極地域観測隊の一員として、昭和基地からこのメッセージをお届けしております。南極という極限の環境の中で、研究者達の姿勢から学んだことがあります。

それは、物事を追求し、根拠をもった新たな発見を得るためには、高度な専門知識や技能はもちろんのこと、諦めない粘り強さや集中力といった精神的な逞しさ、そして根気強く取り組むための体力が重要であるということです。こうしたことから、改めて、「知・徳・体」のバランスのとれた力や、自分で考え行動する力を、次代を担う子どもたちに、しっかり身に付けさせなければならぬと強く感じているところです。

また、南極に来て強く感じたことがあります。南極では、お金を払えばサービスを提供してもらえということはありません。限られた人と物の中で、協力し合う、知恵を働かせて工夫する、経験した事がなくても挑戦して自分にできることを増やすことが当たり前に求められます。

しかし、このことは南極に限ったことではなく、子どもたちが、そして、さらに先の世代が、これからも幸せに暮らしていくためには、どこで暮らしていても、どんな立場であっても、誰もが備えていなければならない資質・能力だと思えます。

私は校長ですので、今回させていただいた貴重な経験からの気付きや学びを、学校経営にどのよう結び付けていくかが試されていると思っています。

間もなく、昭和基地を離れ、砕氷船「しらせ」による復路の航海がスタートします。帰りの航路では、任務の隙間時間で令和7年度の学校経営方針を組み立てていくつもりですが、究極の経験をしたからこそ見えてきた本当に必要な資質・能力を育成する方針をじっくり考えたいです。

新しい一年が始まり、子どもたちにとっても新たな挑戦が待っています。学びの中で困難に直面することもあるでしょうが、それを乗り越えることで得られる成長や学びは何にも代えがたい貴重なものです。私たちは、子どもたちがそれぞれのペースで成長し、自分の可能性を最大限に発揮できるよう、引き続きサポートしてまいります。

これからも保護者の皆様には、変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。学校と家庭が一体となって、子どもたちの未来をより良いものにするために手を取り合ってまいりましょう。最後になりましたが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、お祈り申し上げます。



<ヘリコプターに乗り上空から見た昭和基地としらせ>

物事を追求し、根拠をもった新たな発見を得るためには、高度な専門知識や技能はもちろんのこと、諦めない粘り強さや集中力といった精神的な逞しさ、そして根気強く取り組むための体力が重要であるということです。こうしたことから、改めて、「知・徳・体」のバランスのとれた力や、自分で考え行動する力を、次代を担う子どもたちに、しっかり身に付けさせなければならぬと強く感じているところです。

南極では、お金を払えばサービスを提供してもらえということはありません。限られた人と物の中で、協力し合う、知恵を働かせて工夫する、経験した事がなくても挑戦して自分にできることを増やすことが当たり前に求められます。しかし、このことは南極に限ったことではなく、子どもたちが、そして、さらに先の世代が、これからも幸せに暮らしていくためには、どこで暮らしていても、どんな立場であっても、誰もが備えていなければならない資質・能力だと思えます。

4 南極地域観測隊に同行して

組織とは、リーダーとは・・・

○組織の一番の資源は「人財」

人事でもってくるだけではなく、いる人間をどう育てていくか。

○「全方位すべて良し」は、ほぼ無い中での「決断」

組織の一員である以上、トップはどうしてそういう決断をしたのかを汲み取る力が求められる。

○事象は一つでも、事実は無限

受け止め方は人それぞれ、どうやったってアンコンシャスバイアスはかかる。それを自覚し、どういう行動、言動をとるか。

○大切なことは、「心地良い組織」

組織が作られた目的は何か、目的が果たされるために取るべき態度は何か、「不易と流行」を意識し常に改善を図る覚悟が求められる。

原田隊長、齋藤艦長から、多くのことを学びました。この学びを学校経営に生かしていきます。ありがとうございました。